

研究員 の眼

IT技術の発達がユビキタスワーク を可能にする！

生活研究部門 研究員 金 明中
(03)3512-1825 kim@nli-research.co.jp

朝6時ぐらいに起き、テレビをつけニュースを見ながら家族と食事をする。朝食が終わったら、犬の散歩をしながら公園のベンチに座って、スマートフォンで会社からのメールをチェックし、その日の業務内容やスケジュールを確認した後、家に戻ってからノートパソコンを利用し業務を始める。午前11時から会議があるので、タブレットPCの電源をつけ、在宅勤務をしている仲間や上海のレストランで食事をしている上司と会議をする。会議が終わった後には買物から戻ってきた妻と一緒にランチをしながら、子どもの中学校受験について少し話をした後、また仕事モードに戻る。午後2時には再びタブレットPCを利用し、取引先と打ち合わせをした後、屋上で気分転換をしている間にスマートフォンにかかってきた顧客の問い合わせに対応する。午後4時にはその日の業務がすべて終わったので業務を整理し、会社のクラウド(cloud)に資料をアップロードした後、妻と一緒に習字を習いに行く。翌日は午前中に子どもの保護者会があるので午後から仕事をスタートする予定であるが、スマートフォンやタブレットPCがあるので、いつでもどこでも業務に対応することができる。

まさに夢のような生活がIT技術の発達や普及により、現実のものになる可能性が高まっている。今までIT技術を活用した柔軟な働き方は「テレワーク」と呼ばれ、徐々に普及してきた。最近ではiPhoneやiPadなどが登場してきており、労働者はより時間や場所の制約なく働くことが可能になった。知人の労働経済学者がこれを「テレワーク」と区別し、「ユビキタスワーク(ubiquitous work)」として取り上げていたので筆者も興味深く思った。

英語のubiquitousという言葉には、誰もがいつでもどこからでも情報ネットワークにアクセスできるという意味が含まれている。まさに「テレワーク」の進化型である。既存の「テレワーク」がノートパソコンや携帯電話を主な手段とした働き方だとすると、最近では、タブレットPCやスマートフォンなどを用いることによりポータビリティが高まり、働く時間や場所の制限もほぼなくなった。

今後、IT技術はさらなる発展が予想されており、既存の「テレワーク」という働き方も大きな変化が期待される。ここではこのような将来の新しい働き方を既存の「テレワーク」と区別し「ユビキタスワーク」という名前で紹介した。

現在、「ユビキタスワーク」のような柔軟な働き方を実現するインフラは整いつつある。「ユビキタス

ワーク」実現の日を迎えるためには、ハード面の準備と同時に仕事の進め方や企業や個人の意識の変革などソフト面の準備も進めておく必要がある。